



令和5年7月1日現在

世帯数	6,378戸
人口	15,394人
男	7,487人
女	7,907人

Aリーグ優勝は15区公民館

5月28日(日)に町内公民館対抗40歳以上ソフトボール大会がH30年度以来に開催されました。

コロナ感染症の影響で3年間にわたりスポーツ事業が中止となり、久々のスポーツ大会の開催となりました。

H30年度よりはチーム数が若干少なくなりましたが、前回同様にA・Bと2つのリーグに分かれて、Aリーグには4チーム、Bリーグには9チームの計13チームが参加しました。

Aリーグは真剣勝負のトーナメント方式で優勝を争い、Bリーグは親睦目的の特別ルールを設け、競技を楽しむことを主にして3グループに分かれて総当たりのリーグ戦を行いました。

特にBリーグは、打者一巡したらチェンジ、選手交代もいつでも自由とする特別ルールを採用したので、実力差が大きいチームと対戦した場合も、守備だけで攻守交替にならないというリスクが解消され、打席に立つ機会が増え、誰でも楽しく取り組めると選手や役員の間でも好評でした。

また、和気あいあいとソフトボールを楽しむ様子が見られ、各々のスタンスで競技に取り組んでいました。



Bリーグの様子
選手と応援する町会の方々
(下島運動広場)



優勝した15区の皆さん

Aリーグは、前回からは半分の4チームとなり、コロナ禍の3年間の空白がスポーツに与えた影響の大きさを感じました。

試合は白熱したレベルの高い試合で、見ている方も非常に面白い勝負を繰り広げていました。決勝戦では15区と20区が優勝を争い、15区が優勝しました。15区公民館は久しぶりの優勝ということで、役員・選手ともに大変喜んでいました。

今後の課題として、ライフスタイルの変化や選手の高齢化等により、参加する公民館が減り続けているということが増やするためには、要項の大幅な緩和等の改革を検討し、工夫する努力をしなければならぬと思う大会でした。

三神社の由来

22区町会内に鎮座されている三神社について調べてみることにしました。

国道の脇にあり、信号のプレートに「三神社」と表示されているので、波田地区のほとんどの人は所在を知っているかと思えます。



三神社 本殿

明治時代には、政府による国家神道強化のための一村一社の政令で合併が進められ、明治初期に旧三溝村にあった4つの神社が統合合祀され、明治後期に現在地に建設されて今に至っているとのこと。その後、昭和18年に民家の土蔵から探された「源義家公の像」を「八幡社」として奉納された祠、昭和41年に奈川渡ダムの建設で水没してしまいう集落の人たちが波田に移住する際に「秀綱社」(三木秀綱)の本殿(石祠)を三神社で祀ることとなり、境内社として三神社本殿の南側に元々あった「蚕玉社」とともに三神社が鎮座されています。

興味のある方はこれを機に見学に来て、参拝していただけたらと思います。



左から秀綱社、八幡社、蚕玉社

これから記載するのは、平成20年度の氏子総代の方々が編集され、平成21年度に発行した「三神社の由来」という冊子を基に紹介します。

元々は平安時代の笹神社が始まりとされ、江戸中期の文献には葦原地籍の「三社」と呼ばれていた記述があり、御祭神は、「建御名方命」(たてみかたのみこと)、「誉田別命」(ほんだわけのみこと)、「天児屋根命」(あめのこやねのみこと)の三柱を主神と

砂防ダムの建設について



令和3年8月15日深夜16区上海渡地区は、大雨による土砂災害警報・水沢の氾濫により避難指示が出され、住民は波田公民館に避難することを余儀なくされました。

私の記憶ではこの地区で避難指示が発生したのは初めてだと思います。報道等で避難する状況を目にすることはありましたが、まさか自分も避難することになるとは思ってもいませんでした。避難所でしたが、幸いにもその日のうちに帰宅することができました。この災害での人的被害はなかったものの、水沢付近の個人敷地・道路への流木・土砂流入等が発生しました。



令和3年氾濫状況

この氾濫後の令和4年3月から長野県により砂防ダムの建設が始まり、来年1月完成を目指し工事が進められています。水沢は昭和58年にも台風による大きな災害が発生し砂防ダムが建設されていますが、現在建設中のダムはその下流に高さ12・5m幅38・0mのダムが建設されています。

地球温暖化による異常気象のため近年大きな災害を目にすることが多くなってきました。今年度も日本の各所で大雨による災害が発生していますが、大きな災害が起きないことを願っています。また、自治体の災害対策への取り組みのおかげで安心して日常生活が過ごせることに感謝したいと思います。



建設中の砂防ダム

コインランドリーの豆知識



寒い季節や、梅雨時など乾燥機でお世話になっていらっしゃる方も多いかと思いますが、乾燥機について

●乾燥機について

一般的な大型コインランドリーの乾燥機はガスを燃焼した熱風で乾燥します。お店によって乾燥温度は若干異なりますが温度切替できる乾燥機

は高温で80度〜70度、中温で60度前後、低温で50度前後が一般的です。ガスを燃焼することで水蒸気も発生し、衣類が柔らかく乾燥できます。一般衣類は20分〜30分、アクリル毛布類や厚手のジーンズ等は30〜40分が目安です。あまり長時間乾燥すると縮んでしまうので注意が必要です。

カーテンは乾燥すると縮みまますので洗濯のあと、乾燥せずカーテンレールに掛けて干した方が良いでしょう。

また、布団類などダニやホコリが気になる寝具類は天日干しせずに、乾燥機に入れる気にはせず、強力な風と熱で奥のホコリやダニ、ハウスダストなどを吸い出し、すっきりふっくら仕上がります。

●洗濯乾燥機について

洗濯から乾燥まで約1時間程度で仕上げる機械です。羽毛布団や、アクリル毛布、こたつ敷き、夏掛けふとんなど色々洗って乾燥できます。

ただし、羽毛ふとんは乾燥まで終わった後、羽毛が固まって乾きムラになっていることがありますので、固まっている羽毛をほぐして大型乾燥機で追加乾燥するとしっかり乾きます。

また、乾燥のみのコースもあり、乾燥中はドアがロック(お店によって異なります)されますので、お洗濯物の盗難など心配な方は、洗濯乾燥機で乾燥する方もいます。

お洗濯や乾燥の出来ないものや注意が必要なものもあります。ウール製品は洗濯も乾燥もNGです。縮んで固くなってしまうので、防水加工してあるものや、革製品、熱に弱く溶けやすいもの、テント、寝袋、可燃性のアロマオイルなどの付いたタオルや衣類など。

ぬいぐるみや枕などは縫い目が切れて中身が抜けてしまうことがありますので利用しない方が良いです。洗濯表示タグに従って自己責任の下で利用しましょう。



遠くそびえる北アルプスの美しさや、おいしい空

気・水・果物、四季を彩る草花などは、波田の魅力として筆頭に挙げられます。しかし、観光冊子には載らない魅力も、まだまだ沢山あります。

- 早春の朝に響く農業車両の走る音(春が来た!と思う)
- 田んぼから聞こえるアマガエルの合唱
- 囁くようなヒグラシの声
- 目覚まし代わりのカッコウの声(たまに困るけど)
- 真夏の日没後の、窓から流れ込む涼やかな風
- 山々とのコントラストが鮮やかな西の空の夕焼け
- 夕方に東の稜線から上ってくる大きなお月様
- 空にかかる大きな半円の虹
- 真冬の、キンと張りつめた乾いた空気

●二両の鉄道車両が映える、のどかな風景

波田に移住して二十年の私を感じる、「何気ない日常の中に癒し・トップテン」です。癒しであり、誇りである、と思います。きっと、誰もがそれぞれの心に持つ波田の魅力。共感していただけるところはありましたか?